

第86回企画展

丑年企画

「塩の道を支えた南部牛」

「塩の道」とは、沿岸から塩や海産物等を内陸に運び、また内陸からは、米穀・雑穀等の農産物を海岸へ運ぶのに使われた道のことをいいます。海と山を結ぶ塩の道は古くから日本各地に数多くあり重要な生活道でもありました。

岩手県においては、塩は北上高地を越えて北上川流域に多く運ばれ、さらに奥羽山

脈に分け入り、沢内・秋田県鹿角方面まで運ばれていました。塩などを運んでいたのは主に牛だったので「塩の道」は「ベコ（牛）の道」とも呼ばれています。本企画展は塩の道をたどりつつ、沿岸・内陸を往来した牛方（牛飼い・牛追い）と牛たちの活躍ぶりを振り返り、岩手が誇る短角牛の発展経過や当時の生活を見つめる機会とします。



道の駅のだ



「刻（とき）の道、食の道、塩の道」より

令和3年7月3日（土）～令和3年9月30日（木）
岩手県立農業ふれあい公園 農業科学博物館

道の駅のだ 観光物産館ぱあふる展示資料より



久慈市山形町「平庭闘牛」



岩手県立農業ふれあい公園
農業科学博物館

北上市飯豊 3-110 TEL: 0197-68-3975

開館時間/9:00~16:30(入館は16:00まで)

休館日/月曜日(月曜日が祝日の場合は直後の平日)

入館料/一般300円 学生140円 高校生以下は無料

団体割引等(20名以上)があります

駐車場/大型バス12台 普通車240台 身障者専用5台